

令和4年度第2回小牧市青年の家運営委員会 議事要旨

【日時】令和5年2月21日（火）午前10時～午前11時

【会場】小牧市青年の家 講義室

【出席者】松永委員長、林（千）委員、橋本委員、小池委員、林（義）委員、船橋（鐸）委員

【欠席者】船橋（早）委員

【傍聴者】なし

【事務局】鍛冶屋こども未来部長、川尻こども未来部次長、伊藤課長、
若林係長、武田指導員、荒川

（こまき市民文化財団）伊藤施設長、野中次長、川中

【議題】（1）令和4年度小牧市青年の家利用状況経過報告について

（2）令和4年度小牧市青年の家事業経過報告について

（3）令和5年度小牧市青年の家事業計画（案）について

【会議内容】

1. こども未来部長あいさつ

皆様には日頃から青少年への指導・助言などを通じて、青年教育の推進を図るとともに格別のご尽力を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、小牧市青年の家は、心身ともに健全な青少年の育成を図るための施設として、各種事業を展開しております。後ほど報告させていただきますけれども、今年度は青年講座としてカラーセラピーの講座や、親子を対象とした小牧山昆虫観察会、やさしい電子工作の講座などを開催しました。

また、講座の開催の他に、「小牧市民まつり」への参加、中高生サークルが企画しているイベントを通じて、今後も青年の家の魅力を発信していき、より一層親しみをもってご利用していただける施設となるよう切に願っております。

本日は今年度の利用状況経過報告、事業経過報告ならびに来年度の事業計画案を議題としております。忌憚のないご意見を頂き、青年の家の、今後の運営に活かしていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

2 議題

(1) 令和4年度小牧市青年の家利用状況経過報告について
(事務局)

資料1-1、1-2に基づき説明。

以下のとおり、質疑応答・意見があった。

(橋本委員)

利用状況はコロナ禍から回復になったということで数字がだいぶ伸びてきているようですが、令和元年度と比較して、今はどんな傾向にありますか。

(事務局)

一部コロナにかかっておりましたが、令和元年度は合計件数が2,947件、人数が17,842人です。平成30年度はコロナ前かと思われませんが、件数で3,565件、人数で21,054人となります。

まだまだコロナ前の状況には届かないところではありますが、この数字に近づいてきているかと思えます。

(2) 令和4年度小牧市青年の家事業経過報告について
(事務局)

資料2に基づき説明。

以下のとおり、質疑応答・意見があった。

(松永委員長)

青年の家の寺子屋事業ですが、勉強や遊びに集中できるということで、遊びは実際どういうふうに進められたのでしょうか。

(事務局)

勉強をやったり、先生がクイズ形式で問題を出したり、適度に休憩を入れたり、勉強をして最後の時にクイズ形式を取り入れて楽しんで帰っていただくということで、講師の方が考えてくださっています。

(松永委員長)

ありがとうございます。主な活動場所は室内ということですね。

(事務局)

青年の家です。

(3) 令和5年度小牧市青年の家事業計画(案)について

(事務局)

資料3に基づいて説明。

以下のとおり、質疑応答・意見があった。

(橋本委員)

ジュニアセミナーの件ですが、これまでもジュニアセミナーは青年の家で開講していましたか。

(事務局)

ジュニアセミナーはこれまでも青年の家でやっておりました。

3 意見交換

(事務局)

令和5年4月以降の青年の家の開館時間について資料に基づき説明。

【内容】

■指定管理者であるこまき市民文化財団より、令和5年4月より夜間区分(午後5時から午後9時30分まで)の利用がない日は、開館時間を談話室利用終了時間である午後7時までとし、職員の勤務体制を見直すことで、利用の多い時間帯の職員数を増やし、施設の管理運営の充実をはかりたい。また、あわせて高騰する光熱水費などの経費を削減したいとの相談があった。

■今までは青年の家における施設予約は、午前8時30分から午後8時までとなっていた。令和5年1月より施設予約システムが更新され、利用者の利便性を図るため、施設に行かなくても、自宅等にてインターネットでの予約・利用料金の支払いを可能としており、施設予約のために青年の家を開館しておく必要がなくなった。

■原則はいままでどおり、午前8時30分から午後9時30分まで開館であるが、夜間区分(午後5時から午後9時30分まで)の利用がない日は、談話室の閉館時間である午後7時までの開館としてはどうか。

以下のとおり、質疑応答・意見があった。

(林(義)委員)

現状ではどういったシフト勤務体制になっているのですか。

(事務局)

青年の家勤務者は3名おりました、週休日にかぶらなければ、日中は2名、夜間勤務者が1名、週休日があれば、日中1名、夜間1名という配分になります。

(林(義)委員)

利用者に合わせて、フレックスに変えるのはいいのかなと思います。

(船橋委員)

私もだいぶ以前ですが、ここで勤務したことがあって、たしかに夜はおっしゃるように、利用者がいるときはいいですけども、利用者がない時は退屈と言っはいけないですが、そういう状況だからある程度はやむを得ないかと思います。

それとボーイスカウトは今年で55年になりました、この青年の家ももちろん何回も使わせていただいていますし、小牧山全体をひっくるめて、アウトドアをやる場所だと理解をしています。青年の家も含めて小牧山全体が史跡公園としての扱いが本来こうなのか、きつくなったのかもしれませんが、今小牧山で炊事やテントをはるということが結構厳しくなっています。そういうことからいいますと、我々の活動としては非常に困っている状況でありますから、今ご提案がありましたように、時間によって人員を調整していくというのはいいと思います。そして必要などころについては、なんとか頑張りたいなということをお願いしたいです。

(小池委員)

青年会議所としても施設予約システムを利用する機会が多いですが、そちらの方で管理できるのであれば、時代に即したやり方であったりとか、柔軟に対応していけばいいと思います。

(橋本委員)

私もやはりこれは時代の流れというのか、省けるものは少しでも省いた方がいいと思います。利用者がないときに職員がいるよりも、利用者があるときにたくさん入ってもらった方がいいと思います。

(林(千)委員)

皆さんの意見を拝聴していて、なるほど、もっともだと同感いたしております。

(松永委員長)

では、委員としては、この案についてよいのではないかという意向を

持っておられる方が多いということによろしいかと思えます。

意見交換はまだ時間があるということですので、さきほど、小牧山が史跡としての意味合いが強いけれども、活動がしやすくなるような応援をお願いしたいというのがありました。そのほかご意見がございましたらお願いします。

(林(義)委員)

よくいろんな場所で名前が出てきますが、NHKのドラマの影響とかかって感じられますか。それとも全然ないですか。

(松永委員長)

事務局への質問でいいですか。手ごたえってということですね。

(林(義)委員)

そういう人が増えたなあという印象はありますか。

(事務局)

青年の家としては特段感じるものはないです。

指定管理者として、れきしるこまきと歴史館を受託しています。

こちらとすると、結構にぎわっているような気がしますが、数字を比較すると、今歴史館が休館しておりまして、昨年よりは12月、1月と利用者数は減っていると思います。

(松永委員長)

どうする家康に向けて、リニューアルを図っているという、乞うご期待という段階ですかね。

(事務局)

はい。

(林(義)委員)

商工会議所や法人会など経済関係の方は、すごく期待しているので、興味があって聞いてみました。

(橋本委員)

やはり、小牧長久手で関連があるので、どうする家康に便乗して、例えば極端な例だと日曜日にね、小牧駅発で歴史館巡りのツアーや史跡巡りというものもあってもおもしろいかなあと思います。

(松永委員長)

青年の家からは離れてしまいますが、市民としての思いはありますよということですかね。

(橋本委員)

小牧の活性化ということです。

(松永委員長)

はい。ちなみに歴史館はいつ再開でしょうか。

(事務局)

4月1日にリニューアルオープンを予定しています。

(船橋委員)

先ほどの報告にもありましたけれども、ゴールデンウィークに2日間、小牧山親子ラリーを行います。2日間で、親子の人数でいくと、両方で200名か230名くらい。毎年、テーマを決めてやっていますが、今年のテーマが今の話のどうする家康からとるなら、どうする小牧山、どうする小牧城など、何かをひっかけようとは思いました。

(松永委員長)

やはり大河ドラマで扱われてるということは、市民の期待は大きいということですかね。

市民の期待が大きいということでこの活動が青年の家での活動にも広がっていけばと思います。

貴重なご意見ありがとうございました。

今後とも青年の家の活動に生かしていただけたらと思います。

4 その他

7月頃に令和5年度第1回運営委員会を予定している。